

令和4年度 ㈱神戸製鋼所加古川製鉄所及び

関西熱化学㈱加古川工場環境保全協議会議事録

1. 開催日時：令和4年7月22日（金） 14：00～15：30

2. 開催場所：㈱神戸製鋼所加古川製鉄所 小ホール

3. 会議内容

(1) 開会あいさつ

(2) 委員の紹介

(委員紹介)

(事務局紹介)

(事務局より協議会成立の報告)

(3) 議題

①議案

議案1・・・会長及び副会長の選任について

委員の互選により別府町地区住民代表委員を会長に、尾上町地区住民代表委員を副会長に選任。

(会長あいさつ)

議案2・・・令和3年度環境保全協議会収支決算について

－ 承認 －

議案3・・・令和4年度環境保全協議会収支予算案について

－ 承認 －

議案4・・・要綱および内規の一部改正について

－ 承認 －

②報告事項

報告 1 令和 3 年度立入調査結果について

(兵庫県報告)

- ・昨年度は計 4 回の立入調査を行った。6 月、7 月は製鉄所自主管理目標値の未達成に対する立入調査であり、市と合同で散水や清掃の状況について現地を確認した。原因と対策について報告するよう事業者に指示し、1 月 12 日に報告書を受理した。未達成の原因は、焼結工場周辺の散水不具合と敷地境界の防じんネットの閉塞であり、ネットの清掃については、令和 4 年 4 月に立入調査を行い、実施を確認している。
- ・11 月、3 月は火災事故に対する立入調査である。施設の状況、周辺環境への影響の有無、苦情の発生状況について調査を行い、周辺環境への影響はなかったことを確認している。

(加古川市報告)

- ・大気関係 40 回、水質関係 22 回、騒音関係 2 回、その他 1 回、延べ 65 回の立入調査を行った。令和 3 年度からアスベスト除去等に係る解体等工事の指導について、市が行うようになったため、大気関係の立入調査件数が増加している。
- ・水質関係の立入調査では、排水口での水質調査、排水差温調査、汚濁負荷量調査、pH 計の精度確認を行い、協定値の超過はないことを確認した。
- ・大気関係の立入調査では、粉じん発生のおそれがある堆積場等について現地調査を行った。
- ・騒音関係では製鉄所敷地境界での騒音測定を行い、騒音規制法の基準値超過は無かった。
- ・令和 3 年度の製鉄所周辺の降下ばいじんについて、5 月から 7 月かけて製鉄所自主管理目標値を超過している。加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校の 3 地点における降下ばいじん総量の年平均値は $3.6\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ となり、令和 2 年度と比較すると横ばいであった。
- ・令和 3 年度に加古川市が受け付けた製鉄所に対する苦情件数は 11 件であり、主な内容は粉じん、煙突の有視煙、操業音への意見であった。

報告 2 協定書の実施状況について (神鋼報告)

(大気関係)

- ・硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじんの時間排出量、年間排出量について協定値を遵守した。
- ・令和 3 年度の降下ばいじんについては、加古川神鋼ビル (5 月、6 月、7 月)、別府

小学校（7月）において製鉄所自主管理目標値が未達となった。

（水質関係）

- ・COD、SS、ノルマルヘキサン抽出物質及び溶解性鉄の負荷量について、協定値の超過は無かった。図-9の溶解性鉄の負荷量最大値が高い状況は、高炉の特定の操業状態の際に発生していることがわかっており、負荷が上昇するタイミングでの管理を強化している。

（騒音関係）

- ・製鉄所周辺3地点で騒音を監視している。環境基準60dBを超えた時間もあるが、雨音やトラック走行音等の影響であり、製鉄所の操業に起因する騒音はなかった。

（悪臭関係）

- ・アンモニア、硫化水素について敷地境界で臭気測定を行い、法令基準の遵守を確認した。

（発生品対策関係）

- ・製鉄所内で発生するスラグについてはセメントや路盤材として有効活用し、再資源化に取り組んでいる。

（情報公開関係）

- ・令和3年6月27日に現地説明会を開催した。6名の出席があり、環境保全の取り組み状況を説明するとともに、現地見学を行った。

（製鉄所自主管理目標値の未達に対する報告）

- ・令和3年度は5月、6月、7月に製鉄所自主管理目標値が達成できなかったため、加古川製鉄所長をトップとしたワーキンググループを設置し、原因究明と対策検討を行った。
- ・ビッグデータ解析等を用いることにより、未達の要因を2つ特定した。敷地境界の防じんネットの閉塞と、焼結工場の粉じん飛散である。
- ・防じんネットの閉塞については、高所散水設備を設置したことでネットに藻が発生し、ネット網目が閉塞したことで、粉じんが舞い上がりやすい状態となり、神鋼ビルの降下ばいじん量が増加した可能性があることが分かった。
- ・焼結工場での粉じん飛散については、散水した水が風に流され、粉じんの飛散が抑制できていないことが分かった。

- ・今後の対策として防じんネットの定期清掃と焼結工場への集じん機の設置を実施する。
- ・ネットの清掃は令和4年3月に完了している。集じん機の設置については令和5年4月の稼働を目指している。集じん機設置までの期間は、発じん箇所に防じんネットを新たに設置するとともに散水を強化することで、飛散の抑制に努める。

(火災事故に関する報告)

- ・11月に発生した原料ヤードベルトコンベアでの火災事故について報告する。火災の原因はベルトコンベア架台の変形によるベルトの蛇行であり、全数調査を実施し、同様の症状が確認された架台について補修を行った。

－ 質疑応答 －

(委員)

- ・11月に発生した火災事故について報告をいただいたが、兵庫県の3月の立入検査で確認した火災事故について報告をいただいてもよいか。

(関西熱化学)

2月14日にコークス炉の上にある石炭を貯蔵する設備内のベルトコンベアが焼損する火災が発生した。原因は設備の不具合により通常入らないところに火種が入ってしまい火災に繋がったというものである。不具合を修理するとともに養生壁を設置し再発防止を図っている。また、当日、火災による環境影響がなかったことも確認しており、現在は設備の定期点検等を実施しながら安全に運転を継続している。

(委員)

事故が2回もあったことを心配している。行政、事業者ともに環境影響はなかったと言うが、影響が全くなかったとは言えないのではないか。一時的とはいえ火災の煙が発生しているわけです。今後、事故がないよう、十分に注意して操業をお願いします。

また、個々の原因と対策はそのとおりだが、設備の維持管理の予算が採れているのか、点検ができているのかなど、組織という視点からの分析も必要かと思う。

(委員)

ネットに発生する藻について、目視でチェックしていくのか。基準は設けているか。

(神鋼)

基準は設けていく。洗浄がよいのか、薬剤による抑制がよいのか、並行して検証し

ていく。

【 閉会 】

(副会長のあいさつ)